

小学生プログラミング 本場で県大会

# 橋尾君(鯖江5)が最優秀



## イタチ追い払う装置制作

独自に制作したプログラムの発想力や技術力を競う「全国選抜小学生プログラミング県大会」(福井新聞社、全国新聞社事業協議会主催、げんでんふれあい福井財団協賛)のファイナリストが20日、福井新聞社・風の森ホールで開かれた。イタチを追い払う装置を作った橋尾海君(鯖江市惜陰小5年)の「イタチ大作戦」が最優秀賞に輝いた。(杉本哲大)

### 3月全国大会へ

最優秀賞に選ばれ、表彰を受ける橋尾君=20日、福井新聞社・風の森ホール

科学技術に親しみ、プログラミングをより効果的に活用する力を育てようと2020年から開いている。「みんなの미래」をテーマに、小学4〜6年生から生活に役立つ、将来あったら良いと思う作品を募った。9人から応募があり、5

人がファイナリストステージに出場。制作したきっかけや工夫した点、特徴などを4分間の持ち時間で発表した。後、実際に動かした。3人の審査員が「発想力」「表現力」「技術力」の観点から評価した。

橋尾君の作品は、祖母の家に着くイタチを追い払おうと制作した装置。超音波センサーがイタチを察知すると、モーターが作動して箱のふたが開き、イタチが嫌がる酢のにおいが広がる仕組み。イタチの生態まで調べた点などが評価された。

橋尾君は「複数のセンサーを同時に動かすプログラミングが難しかったけど、目指していた賞を取れてうれしい」と喜びを話した。

審査員長の樋口健福井大教授は「楽しみながら、これからもプログラムを続けてほしい」と講評した。

橋尾君は東京で来年3月開かれる全国大会に出場す

る。  
最優秀賞以外の入賞は次の皆さん。  
▽優秀賞 藤本理史(福井大附義務6)▽特別賞 谷島佑和(福井大附義務5)畑遠次朗(湊小6)二井土慶(中藤小6)